

日刊

産業新聞

Japan Metal Bulletin

大学生招き工場見学会

大和合金 意見交換会も実施

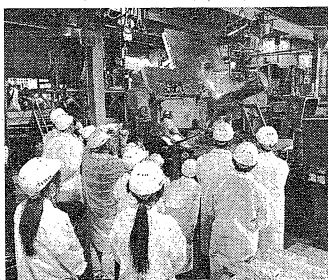
特殊銅合金メーカーの大和合金(本社＝東京都板橋区、萩野源次郎社長)は長崎県立大学の学生を招き、会社見学会を行った。地域創造学部の3年生12人が実践経済学科長の坂元洋一郎教授の引率で訪問。グループ会社である三芳合金工業の生

産ラインを含め、溶解や熱処理といった各工程を見学し、仕事現場や製品の用途を学んだ。その後は社員を交えた意見交換会も行われ、目指すべき社会人の姿やキャリアプランなどを語り合った。

生産現場の見学は三芳合金工業の熱処理工程から始まり、鍛造や機械加工、金型製作、検査・出荷まで一連の流れを現場に触れて学んだ。学生たちは高温で熱せられて赤橙色と

を因るため導入した最新設備も見学。コントロールームから安全に加工ができる大型プレス機、自動搬送ロボットを使った超音波探傷器などに高い関心を示し、社員の説明を熱心に聞き入った。

意見交換会は総務課の若手社員も参加して行われた。政府系金融機関から研修として派遣された社員で、社会人経験は5年目。金融業界を志望した動機やこれまでの経歴に加え、キャリア形成にあたってのアドバイスを学生に伝えた。萩野社



学生たちは炉から引き出される金属に興味深く見つめた

長は材料供給を通じた社会貢献が自社の誇りと語った。その上で、「仕事のやりがいには目の前にある。課題をクリアする中でそれを見つければ、キャリア形成に生かしてほしい」とも述べた。

今回の見学会は今年6月に萩野社長と若手社員が同大学の講義に参加したことがきっかけで、その後も坂元教授とやりとりを重ねて実現した。萩野社長は今後も信頼関係の構築に努め、両者の交流をさらに発展させたい考えだ。